様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ８ 月 ２７ 日現在

機関番号：１７４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2017
課題番号：２６３７００２４

研究課題名（和文）応用倫理諸領域の議論の検討に基づく災害時の倫理学の構築

研究課題名（英文）Construction of disaster ethics based on the consideration of various fields of applied ethics

研究代表者
高橋　隆雄（Takahashi, Takao）

熊本大学・大学院先導機構・特定事業教員

研究者番号：００１４５２７８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,800,000円

研究成果の概要（和文）：１年目は災害と倫理に関する国内外の言説の整理と解釈を中心に行った。それを踏まえて２年目は、主としてトリアージの倫理、そして災害対応時の倫理的行動原理の考察を行った。３．４年目は、研究の集大成として、災害時と平常時の倫理の関係を「共災（災害と共にあること）」というキーワードのもとに把握した。研究の３年目の４月に研究代表者の勤務地である熊本を震度７の地震が２度襲った。研究代表者の住居も被災したが、地域の被災の状況、対処の仕方、その後の対応等について、地域住民にインタビューを行った。これらは、本研究の理論的帰結の裏付けとなったり、新たな視点を提供するものとなったりもした。

研究成果の概要（英文）：In the first year,the research focused on the understanding and interpretation of the previous materials. Based on this, in the second year, the main research was to explicate the ethics of triage and the ethical principles of behaviors in a disaster response period. In the third and fourth year, the relationships between a disaster period and a normal period was considered by the framework of "Co-disaster(Co-existence with a disaster)".In April in the three year, Kumamoto was attacked by big earthquakes twice.The principal researcher of the research was damaged by the earthquake, but the interview to the local residents was performed, the result of which helped to support the theoretical consideration of the research.

研究分野：倫理学

キーワード：災害倫理　トリアージの倫理　災害時の行動原理　災害と徳倫理　災害時と平常時　共災　自助・共助・公助

１．研究開始当初の背景

従来のアメリカ由来の環境倫理では、災害における人間の犠牲よりも原生自然の保護が議論されてきたため、災害はほとんど研究テーマとされてこなかった。それに対して、災害、救急医療、軍事におけるトリアージは生命倫理の領域で論じられてきたが、医療に限定されることが多く、人間と災害の根本的関係を問うものではなかった。また「人間と自然の共生」という日本独自の自然観に基づくとされる日本の環境倫理も災害や防災をテーマにしてこなかった。美しいとされる里山も災害時には人間にとって脅威となるという当然のことへの感覚が不足していたのである。こうしたことが象徴するように、これまで災害は倫理学の主要なテーマではなかった。しかし、特に東日本大震災を契機に日本では、防災対策の法整備や工学的あるいは行政での災害対策だけでなく、災害に対応できる倫理の構築の必要性が自覚されつつある。研究代表者は 2013 年に刊行した単著『「共災」の論理』（九州大学出版会）において、人間と災害の関係を日本古代の思想にさかのぼって論じたが、本研究は、それを踏まえて、より実践的な災害対応への倫理的行動原理と災害準備時における徳の涵養、そしてそれらの基礎付けを目指すものである。

２．研究の目的

トリアージ等の医療をめぐる問題は別として、災害時の倫理の考察は世界的に見ても開始されて間もない。その考察は、人間と自然の関係の再考や原発問題（環境倫理）、トリアージ等の災害時の医療問題や被災者のストレスへのケア、コミュニケーション回復（生命倫理）、科学技術と防災への責任（技術者倫理）、ネットワーク社会と災害でのデジタルディバイド（情報倫理）。災害時の企業の責任（企業倫理）等、応用倫理の諸領域に及ぶため、それら諸視点を結びつける視点が求められる。それは、人間の持つ根源的欲求に関わるものであると言える。また、緊急の判断を必要とする災害時は、通常時のような倫理的判断が困難となりがちで、個人的にも社会的にも多くの倫理的ジレンマを生じさせる。そのことが原因で、本来は助かるべき人が犠牲になったり、あるいは、身内を助けられなかった人が長く後悔に苦しむ事態を生じさせている。それらのジレンマに対応できる倫理的行動原理の確立は喫緊の課題である。このような「災害時の倫理」の探究は、同時に、「災害時の倫理」と「平常時の倫理」の関係を解明することにもつながるはずであり、それらの考察を通じて、人間と災害の基本的関係、また災害が人間にとって有する意味を捉え直すことができるだろう。実際に、平常時を災害準備時と捉えることが日本の防災関連の法でも定着しつつあり、平常時も災害とともにあることの自覚も促されているのが現状である。こうした定着化と自覚化が哲学的・倫理学的に意味することの解明には重要な意義が存すると言える。

３．研究の方法

１年目は災害と倫理に関する国内外の言説の整理と解釈を中心に行った。それを踏まえて２年目は、主としてトリアージの倫理、そして災害対応時の倫理的行動原理の考察を行った。３．４年目は、研究の集大成として、災害時と平常時の倫理の関係を「共災（災害と共にあること）」というキーワードのもとに把握した。なお、フィールドワークとして当初はバングラデシュを計画していたが、多数の日本人が巻き込まれるテロが生じ、渡航が困難となったため、取りやめとなった。国外でのフィールド調査は中止となったが、研究の３年目の４月に研究代表者の勤務地である熊本を震度７の地震が２度襲った。研究代表者の住居も被災したが、地域の被災の状況、対処の仕方、その後の対応等について、地域住民、マンション管理人、幼稚園延長、生活協同組合関係者等にインタビューを行った。これらは、本研究の理論的帰結の裏付けとなったり、新たな視点を提供するものとなったりもした。また、地区防災計画学会に入会し、研究発表やシンポジウムパネリストとしての活動を通じて、防災関連の学に携わる多くの研究者と情報交換することができたのも、倫理学的考察の有する抽象的議論に陥りがちな課題の克服に大いに貢献した。

４．研究成果

研究成果は、学術論文執筆、学会等での発表、図書刊行という形態で行った。学術論文５件、学会等での発表１５件、共著刊行２件であった。詳細については以下に記す。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）

・高橋隆雄、「よく生きる」とはどういうことか－２１世紀の人間の理想－　『ヒトの教育』第１４号　ヒトの教育の会　（招待論文）2017, .28-51

・Takao Takahashi, “Consumption Society and the Ideal of Human Beings”, *Proceeding of the 4th World Humanities Forum* 2016, Suwon City, Korea, October 27, 2016, 155-164 (査読有)

・高橋隆雄、「トリアージの倫理」『人間と医療』第５号　九州医学哲学倫理学会　2016, 4-11, (査読有)

・高橋隆雄、「災害時の倫理：トリアージの倫理から災害時の倫理へ」『先端倫理研究』熊本大学倫理学教室編　第９号 2015 18-36. (査読有)

・高橋隆雄、「共災の思想とアニミズムの展望」『文化と哲学』　静岡大学哲学会　第３１号 2014　1-20,　（招待論文）

〔学会発表〕（計１５件）
・高橋隆雄、「災害とともにある時代の自助、共助、公助－共災の時代の倫理－」、日本医学哲学倫理学会 2017 年度公開講座「災害と倫理－公助としての医療とそれに接続する自助、共助について－」熊本市・県民交流館パレア　2018.2.12,
・Takao Takahashi, “ Disaster Ethics: Philosophical Foundation and its Implications ” Kumamoto University Bioethics Roundtable, KBRT11, (主催者, Kumamoto), 2017.11.19
・高橋隆雄、第３回地区防災計画学会大会「防災計画と倫理－防災計画への徳倫理の導入－」京都大学宇治キャンパスおうばくプラザ 2017.3.4
・高橋隆雄、「死を活かす－災害で愛する人をなくした人へのケアの一つのあり方－」熊本地震シンポジウム：被災地における人々のケア～宗教者の役割とその連携の可能性、くすの木会館レセプションルーム 2016.12.5
・Takao Takahashi, “ Kumamoto Earthquakes and Disaster Ethics ”, Kumamoto University Bioethics Roundtable, KBRT10, (主催者, Kumamoto), 2016.11.21
・Takao Takahashi, “Consumption Society and the Ideal of Human Beings” (video participation), 4th World Humanities Forum, in Suwon, Korea, 2016. 10.27　（招待）
・高橋隆雄、「熊本での被災経験から」、地区防災計画学会シンポジウム：熊本地震を踏まえた地域防災力強化の在り方 In 名古屋－東海の防災活動と地区防災計画制度－、名古屋大学、2016.7.10
・Takao Takahashi,　”Spiritual Power and Hierarchy of Nature in Ancient Japanese Myths”,　International Symposium „Philosophy of Nature“, Univ. of Vienna, 2016.5.21
・高橋隆雄、「災害時の倫理的行動原理—トリアージの考察から—」第２回地区防災計画学会大会、東京大学生産技術研究所　2016.3.6
・Takao Takahashi, “ Ethics in Disasters Revisited ” Kumamoto University Bioethics Roundtable, KBRT９, (主催者, Kumamoto), 2015.12.6
・高橋隆雄、「災害時の倫理と通常時の倫理」第３４回日本医学哲学倫理学会大会 2015.11.8 新潟大学
・高橋隆雄、「トリアージの倫理から災害時の倫理へ」人文社会科学系国際共同研究拠点第１回研究会「災害の倫理と紛争解決」、熊本大学、文・法共用会議室、2015.2.26
・Takao Takahashi, “Triage and the Medicine in Disasters” Kumamoto University Bioethics Roundtable, KBRT8, (主催者, Kumamoto) 2014.11.7
・高橋隆雄、「日本人の自然観」台湾日本語学科での講演　長榮大学、（台湾）2014.10.28
・高橋隆雄、「日本人の自然観」台湾日本語学科での講演　高雄大学（台湾）2014.10.28

〔図書〕（計２件）
・Takao Takahashi, “Spiritual Power and Hierarchy of Nature in Ancient Japanese Myths” *Philosophy of Nature in Cross-Cultural Dimensions, The Result of the Symposium at the University of Vienna*, H. Hashi (ed.), Verlag Dr. Kovač, Hamburg , 2017, 391-404
・Takao Takahashi, “Disaster Prevention as an Issue in Environmental Ethics”, *Japanese Environmental Philosophy*, J. Baird Callicott and James McRae (eds.), Oxford University Press, 2017. 227-241.

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
https://manabitetokini.weebly.com/

６．研究組織
(1)研究代表者
高橋隆雄（TAKAHASHI, Takao）
熊本大学大学院先導機構・特任教授
研究者番号：00145278

(2)研究分担者
(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者
石原明子（ISHIHARA, Akiko）
熊本大学大学院社会文化科学研究科・准教授
研究者番号：50535739

Darryl Macer（Darryl Macer）
American University of Sovereign Nations, President
研究者番号：90467994

藤井基貴　（FUJII, Motoki）
静岡大学教育学部・准教授
研究者番号：80512532

(4)研究協力者
（　　）